

フラワーロスってなに？
～誰かの想いと共に「人類で一番古いギフト」をつなぐWEBサービス～

こんにちは！コレクティブふくおか+事務局です。

コレクティブふくおか+の「フラワーロス」チームが、ビジネスの立場で社会課題の解決に向けて取り組んでいる[CAVIN Inc.](https://cavin.jp/)の小松社長にインタビューした記事をまとめてくれました。ぜひ、ご一読ください。



出典:CAVIN

「フラワーロス」という言葉を知っていますか？

今、日本の花き産業は縮小傾向にあり、「花」の存在価値が変化する時期にきています。その原因は、花の流通経路である生産・花市場・花屋の各段階で、規格外・イベント減少・売れ残りなどが理由で廃棄されているからです。

この「フラワーロス」という社会課題の解決に福岡市のスタートアップ企業「CAVIN(キャビン)」が取り組んでいます。

「花はいい感情を表すときに使われてきた”人類で一番古いギフト”なんです」そう語ってくれたCAVINのCEOであるRoyさんにフラワーロスという問題について、そして小松社長ご自身について、ちえとおたばなの二人が聞いてみました。



Yuya Roy Komatsu

代表取締役社長 CEO

Vision, Team, Branding

幼少期から日米を往来。

高校卒業後、フィリピンのスラム地区にてNGOボランティア後、渡米。

カリフォルニア大学在学時に、現地アクセラレーターでインターン。

スタートアップのメタ原則や立ち上げ方を学ぶ。

帰国後は、独立系経営戦略コンサルファームにて勤務。

その後国内スタートアップにて、取締役CIO(最高国際責任者)に従事。

海外向けMC/モデレーターなど国や領域を問わないスタイルで活動。

2018年、CAVINを創業。

(<https://cavin.ooo/YuyaRoyKomatsu>より)

「フラワーロス」ってなに？花の価値を再定義してみた

近年、「フードロス」などの社会課題が注目されつつあります。この「ロス」問題は食品業界だけの問題でなく、花き産業においても「フラワーロス」として問題視されています。廃棄される主な原因として、規格外(出荷全体の2~3割)・コロナ禍における需要と供給のミスマッチ・店舗での売れ残り(ロス全体の1~3割)の3つがあります(セイコーエコロジア_コラム_フラワーロスとは？フラワーロスの問題点と解決方法を解説<https://ecologia.100nen-kankyo.jp/column/single146.html>より)。

花も食品と同様に鮮度が重要視されています。しかし、花市場は流通の段階で鮮度が落ちたことにより廃棄される花も多く、加えて生産者と消費者(小売店)の距離が遠いことから、小売現場での売れ筋が生産者に伝わらないまま花が市場に流れ、店舗での売れ残りが発生しているという現状があります。

この花市場の課題をスマートフォン1つで解決しようとしている企業が福岡市のスタートアップ企業CAVINです。

フラワーロスを仕組みから解決！スマホひとつで花の仕入れの自由化を実現



出典:CAVIN

CAVINは「スマホで花の仕入れをもっと自由に」をコンセプトに、スマホひとつで生産者と小売店が直接につながるができるプラットフォームを展開しています。このサービスの醍醐味は、生産者と小売店が自由にやりとりできることです。両者の双方向のコミュニケーションの実現により、生産者はニーズに合った花を生産することができ、小売店は欲しい花を欲しい数量仕入れることができます。

ニーズにあった生産計画の設定、小ロットの仕入れと配達、生産者と小売店の双方向のコミュニケーションにより、花の仕入れの自由化を実現しています。

=====

CAVINのサービス(<https://platform.cavin.ooo/florist>)

花の生産者と花屋が市場を介さずに、スマホなどで直接につながり取引ができるプラットフォーム

=====

—どうして「フラワーロス」に注目されたのですか？



出典：CAVIN

小松社長

「僕は、そもそもロス自体が悪いことだと考えてはいません。例えば、日本は雨水を垂れ流しにしていますが、これはアジアの他地域、特に水が枯渇している地域ではロスと捉えられます。でも垂れ流すこと自体は悪いことではありません。

ただ、花のロスに絞ると問題だと自分の正義で思っています。それは、そもそも『なぜ花が美しいのか』という理由に繋がります。

花が美しい理由は3つあると捉えています。

まず、生物学的な理由として、花があると幸福度が上がります。これは国内外の研究で実証されています。次に構造学的な理由として、花は形状上なるべく日光に当たるように黄金比で構成されています。黄金比で描かれている名画モナ・リザが時代を超えて美しいと評価されていることと同じです。最後に社会学的な理由です。例えばハートのマークは日本では何かしら意味を持つマークです。でもこれを知らない人から見たら『何を表しているのだろうか？』と感じるはず。一方、花は人類が古くから『慈しみ』などのいい感情を表すときに使用してきたものであり、花は『人類で一番古いギフト』だと思っています。」

—ちえ『一番古いギフト』！！素敵な言葉ですね。」

小松社長

「加えて、花は生産者の方々が品種改良を重ねてできたものです。つまり、花は誰かが誰かのために想って作ってきたものなんです。僕は野生の花が枯れていようと問題はないと考えています。けれど、誰かが誰かのために作った花にロスが生まれているのは問題です。品種改良などの加工をするということは、そこに価値が生まれているということです。その花がロスになっているのが問題であり、僕らはそれを解決したいと思ったため、このサービスを展開しています。」

「人間は不合理だから美しい」小松社長ってどんな人？

CAVINの[スタイルブック](#)には、「持っていたけれど、手放しつつある大切なものが世の中には溢れている。(略)。時代が変わり、売るのが変わり、売り方すらも変わっても社会を営む人の本質は変わらない」という文章が記載されています。

小松社長の仕事観に関わる『人の変わらない本質』について聞いてみました。

社長の考える『人の変わらない本質』とは？

小松社長

「僕が『人の変わらない本質』を考えるうえで、大事にしているエピソードがあります。アメリカから帰国したときに自分の周りから人が全員いなくなったことがあります。

アメリカの最先端スタートアップ企業で仕事をしていた頃、「俺は間違っていない」と思っていた時期がありました。チームメンバーに説明して、彼らが理解できなかったときなんて「君らが優秀ではないからだ。俺はこんなにわかりやすく説明しているのに」と思っていました。今思えば責任感が悪い方向に出ていたのかもしれない。「自分がなんとかしなければ」の意識で全員の仕事を見える化して、夜な夜な睡眠を削って働いていました。

でもそれは過信だったんです。一人でできるのであればチームは組まなくていい。人は自分の手足ではないし、余白を残してあげないとその人は自分の個性の筆で絵を書けなくなります。僕は人がいなくなったときに「みんながいないと自分は無力だ。リーダーはみんながいないとリーダーではない。ただの個人になる」と実感しました。これまでマネジメントや経営学を勉強してきたのに「なぜ？」と思いました。

—ちえ「小松社長でも、そんなご経験があるんですね。」

小松社長「人は理解をしても動かない、人は頭ではなく心で動くものだ」と実感しました。この経験を通じて、しなくてはならないのは説明ではなく説得、してもらうべきは理解ではなく納得。説得して納得してもらうのが重要だったんだと気付きました。

僕は、人が夕陽に向かって叫んだり、失恋して叫んでいる姿を美しいと思います。アメリカではよくやっている人を見かけます(笑)。そういう想定通りに不合理なのが人間の美しさだと思うし、この遊び心があるから人間は社会を前に進めてきたのではないのかと思います。しなくてもいいことをやって生まれた発明が今の社会に生きているのではないのでしょうか。

人間の無駄が人間を人間たらしめていて、今もそれは変わっていないんです。洋服や好きな食べ物も違う中で、コスバに支配されているのであれば、全世界の人がジーンズとパーカーを着ているはずですよ。でもそうってはいない。この人間の『想定通りに不合理なところ』をどれだけ汲み取れるかが価値を作っていると思っています。

この「想定通りに不合理なところ」の価値を作ることがビジネスであると考えていますし、社会活動をしている以上、人間の本質は今も変わっていないと思います。立派な企業理念を持った企業も「無駄」から始まっています。その「無駄」を企業理念としてかっこよく定義しているところも、人間の愛くるしい部分だと思います」

=====

CAVINスタイルブック

CAVINのビジョンや背景が素敵な花の写真とともに描かれているデジタルブックです。詳しくはこちらをご覧ください。<https://drive.google.com/file/d/1f5Hmi1T8xl4gnpOnlJvEAKBsdbGZPBjF/view>

「CAVIN事業は第一段階です」CAVINと小松社長のこれからとは？



出典:CAVIN

小松社長は国際フォーラムに参加されていたり、Spotifyで国際問題やジェンダー問題に着目したラジオも配信されています([La Pharmacie](#))。

そんな小松社長に「フラワーロス」以外の社会課題について、そして今後取り組みたいことについて聞きました。

今後取り組みたい社会課題とは？

小松社長

「僕は『教育』に関心があります。全世界の子どもに教育機会を提供するという目標のために大学をつくりたいと考えています。

僕は暴力は一人を傷つけるが、教育は複数人を傷つけ、ときには人生を壊すこともできると考えています。当初は、学校法人という責任あることを始めるにはあまりに経営を知りませんでした。だから一番早く経営を実践的に学びたいと思いスタートアップ企業を設立しました。僕のライフミッションは大学を設立することです。世界中の子どもが無料で教育を受けられる場所を作りたいと考えています。衣食住の全てを無料で提供し、スマートフォンでどこでも誰でも学べる環境を構築します。全世界の誰もが1歩前進できる環境を整備したいと考えています。自分が生きている間に実現させることは難しいかもしれませんが、その場合は次の人が引き継いでくれればそれでいいと考えています。

「花」を活用してこれからしたいことは？

小松社長

「不思議の国のアリスにある「なんでもない日サイコー」みたいな企画をしたいと考えています。ヘリコプターを走らせて、音楽を流して、クラッカーを鳴らして、電子広告で「緊急事態」と写し出すような演出をしたいですね。街に走る緊張感の中、「緊急事態！『なんでもない日サイコー！(なんでもない日常の平和にこそ価値が

ある)』ってことにみんな気づいていない」というメッセージとともに花をばら撒きたいです。もしくはヘリコプターは難しいとしても花をばら撒いたり、ライブ配信したりしたいです。」



出典: CAVIN

最後に

今回CAVINの小松社長にインタビューをして、フラワーロスに対する理解を深めただけでなく、花の価値を考え直すきっかけになりました。インタビューの際に社長は「なんでもない日に大切な人に花を送ってみてください」とおっしゃっていました。普段はイベントやお祝いごとがないとなかなか花を買う機会はないと思います。しかしなんでもない日の贈り物にこそ、気持ちはこもるのかもしれないと考えさせられました。

日常に少しの幸せを運んでくれるものが花であり、なんでもない日の幸せを自覚することが日々の暮らしを豊かにすることにつながるのだと思いました。

いつも自分を大切にしてくれている誰かに花を送ることで、少しずつ幸せの輪を広げることができるのではないのでしょうか。

【ライター: フラワーロスチーム】

ちえ(大学生)

おたばな(会社員)

(取材日: 2021年11月27日)

(※ Top、本文中の写真は全て出典 CAVIN)